

わがよそはひは  
綾あやもにしきも  
人の世ひとよの  
およばしな

つばなは軽かろき  
くろき羽袖はそでに  
さまゝの  
うすぎぬの

あやかりなせる  
わかころも

われこそ蝶てふの  
王きうならめ

しろたへの衣きぬ  
清きよけれど

山吹やまぶきがさね  
色いろはよくとも

言はず語らず春の日の

野口雨情

言はず語らず春の日の

潮うしほはなやぐ朝あさぼらけ

言はず語らず春の日の

陰かげにこぎ行く漁舟いさなふね

言はず語らず春の日の

永ながき光線ひかりせんの海うみの上うへ

言はず語らず春の日の

静しずかに沈ながむ雲くものいろ

言はず語らず海士うまびとの  
波路なみちをかへる夕間暮ゆふまぐれ  
言はず語らず海士の子うまびとこが  
磯いその子松こまつの陰かげに立ち  
言はず語らず沖行雲おきゆくもの  
雲眺せりなめ待まちつは誰たれ子こぞ

花の袂

かすむ春野はるのに  
もえいづる

すみれ蒲公英たんぽぽ  
つくづくし

はなのたもとに  
あまるまで

摘つむうれしさを  
門かどに待まちつ

妹いもうととはゝとに  
わかたばや

あねと弟あとうに  
みせばやな

